令和７年度　第１回学校運営協議会　議事録

静岡県立掛川特別支援学校

１　日　時　令和７年６月11日（水）　午前９時30分から11時30分まで

２　会　場　静岡県立掛川特別支援学校　会議室

３　参加者

〇委員

・会　長　鴻野　元希　様
・副会長　早川　明　様
・コーディネーター　田辺　エミ　様
・委　員　横山　孝子　様（欠席）
・委　員　田中　博史　様
・委　員　水野　正幸　様
・委　員　伊藤　志保　様

〇学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
肢体不自由教育主任、ＣＳディレクター
教務情報課長　　防災教育課長　　キャリア教育課長

４　内容

(1) 学校運営協議会委員の任命

(2)開会

① 校長あいさつ
② 自己紹介

(3)議事

①令和7年度学校経営計画
ア 学校経営の重点　イグランドデザイン　ウ「ふれ活」について　エ 令和6年度及び令和7年度のふれあい活動について
② 意見交換
ア グループミーティング
テーマ：地域とともに学びを支え合う学校
イ 各グループより報告

(4) 校内参観

(5) 校内コンプライアンス委員会

ア 令和7年度不祥事根絶計画　イ 令和7年度人権教育について　ウ 質疑応答

(6) 連絡事項
(7) 閉会

5　議事録

(1) 校長あいさつ

コミュニティ・スクールを設置して数年が経ちました。幅広い居住地に住む子どもたちが、地域とのふれあいを大事に、地域と共に歩む学校づくり、地域に愛される学校づくりを目指して、取り組んできました。

コミュニティ・スクールの取り組みから期待できることとして、「子供たちが自立し、社会参加できる環境の充実を図ること」、「特別支援学校が有する資源の活用を図ること」を通じて地域活性化に貢献していくことが挙げられます。まずは、地域の方と手を取り合いながら学校づくりを進めていくこと、本校が地域に貢献できることを大事に、いろいろな活動の充実につなげていきたいです。意見交換の場面を通じて、熟議（課題解決ができる対話）をして、本校と地域をつなぐ活動の充実を図るため、様々な御意見をいただけるとありがたいです。

(2) 議事テーマ：地域とともに学びを支え合う学校

ア意見交換

イ各グループより報告

① 福祉避難所運営を含めた災害時対応

・本校の防災教育の取り組みを共有（防災教育課長より）

・本校事務部、市役所、地域でできることや課題について共有

本校事務：５年に一回非常食の予算が来ている。帰宅困難者等、全ての予算が取れているわけではない。

福祉避難所の開設について：職員が動き出しのイメージをしっかりもちたい。

どれだけ有事の際に、スムースな体勢がとれるか、連絡系統をどうするのか。

水野委員：二段階避難（広域避難所から福祉避難所へ）が提示されているが、直接非難の計画（個別の避難計画等）について説明をしていただく。体制が整わないと、開設に至れないという実情がある。本校がどれだけ体制が取れるのか、１、２年先を見据えて、具体的に検討していく必要がある。

・家庭で発災した場合は、自宅が被災していなければ、自宅で生活することも自助につながる。

・一般の人の物資（非常食）は７から10日間で届くが、ペースト食や偏食に対応できる物を用意することが難しい。各家庭での備蓄が重要となる。また、発信していくべき。

・卒業生に対して、どのように避難所開設を周知していくか。

⇒福祉施設に通所・入所の方々には把握が可能であるが、進路先の幅があるため、どのように情報提供していけるのか検討が必要。

早川委員：学校周辺の広域避難所は、掛川工業高校となっている。一度、広域避難所に避難することになるため、本校の子どもたちも該当となる。しかし、同じ避難所で生活する市民にとって障害への理解はどの程度なのか、不安要素はある。

・体育館の集客人数200名程度に対し、3000世帯あるので、スペースだけでなく物資やパーテーションが行き届かないことも懸念される。

・自助の七日間が重要となる。各家庭でと連携し、自宅で過ごせる場合には、備蓄品や非常食などに関わる情報を発信していくことが大事。

② 地域との結びつきを深める「ふれ活」の展開

・各学部が「ふれ活」の充実を図る中、現在どの程度、子どもたちの居住地域から認知してもらえているのか、が課題である。いかに本校の魅力を発信していけるか、地域から見て財産である、価値があると感じてもらえるかが重要。
・地域の方からの理解を得るために、必要に応じて学校見学を行い、子どもの様子を見ていただく機会を設ける。
・シンボルマークの活用：マークを印刷したシールを作成し、「ふれ活」で交流した地域のお店や施設等に配布し、貼っていただくことで学校のことを発信していく。
・「ふれ活」マップの作成：地図上に各学部が今までに交流した場所に印を付けて、掲示してみる。子どもたちが取組の経過が見て分かったり、出来上がったマップのデザインを活用して作業製品の包装紙に利用したりできる。
・伊藤委員：ＨＰの閲覧について、実際に保護者は必要な情報のみ検索して確認する現状。魅力あるＨＰの活用を検討したい。
・地域の方との結び付き：一緒の活動をする中で、「楽しい」等のその場で生まれた感情を共有することが重要。ボッチャ等、誰でも気軽にできるスポーツ（体験活動）を通して、交流することも良いのではないか。

③ 社会とつながるキャリアパスポートの活用

・小中高等部で使用している「キャリアパスポート」について、子どもたちの頑張りやこれまでの積み上げが見て取れることを評価していただいた。
・田中委員：キャリアパスポートを通して、個々にどういう仕事が向いているか等、ぜひ活用してほしい。実習の打合せの際に、発信できるツールになる。就労した先の人の入れ替わりや環境が変わっていったときに、「自分のことを発信する力」「自分の苦手を伝えられる力」が身に着いていると良い。
⇒シートにして見える化しておくと生徒自身が伝えられる。
会社の風土から、仕事内容が清掃業務だけでなく、多岐に渡る知識や技能を求められるようになってきている。
・学校として、生徒の理解啓発に努めながら、具体的な改善策を伝えることにより、働ける人が増えていくという可能性を広げていく。
・公共交通機関を利用できる生徒の自立を促すことも大事。
・鴻野委員：地域との結び付きについて、放課後デイサービス利用者が、８～９割程度いるのが現状。家庭と学校間のみにならず、三者の連携を大事にしてほしい。

（５）校長あいさつ

貴重な御意見ありがとうございました。まずは、学校側から発信していき、もっと地域に知っていただくことが大切であり、その取組み方について、校内でも検討していきたいです。今後とも、皆様の協力を得ながら、地域のつながりを深めていければと思います。本日はありがとうございました。